

# 平成30年度一般会計決算の概要

※（ ）内は主要施策報告書のページ

## 1. 決算の状況 (P3, P4)

歳入決算額	20,173,260千円
歳出決算額	19,923,007千円
歳入歳出差引額	250,253千円
翌年度へ繰り越すべき財源	43,027千円
実質収支額	207,226千円

### ○歳入

市税全体としては、1. 3%の減、交付税については、普通交付税が1. 7%減、特別交付税が0. 2%増となり、地方交付税全体としては1. 4%の減となりました。また、国庫支出金が8. 2%減、県支出金については5. 1%減となるなど、主な歳入が減少したため、全体としては、前年度比2. 3%の減となりました。しかしながら、寄附金においては、ふるさと寄附金が394. 3%の増となるなど大きな伸びとなりました。

### ○歳出

教育施設においては、宝城中学校大規模改造事業をはじめ、小学校特別教室の空調設置事業を行うなど、教育環境の改善を図ったほか、幼稚園を統合し、3年保育や預かり保育に対応するため、改修工事などの整備を行いました。

また、「七夕」を活かした地域振興事業である「七夕プロジェクト」の取り組みや味坂スマートインターチェンジ（仮称）の事業着手を行いました。

歳出全体では、前年度比2. 1%の減となりました。

## 2. 市債と基金の状況 (P6)

(単位：千円)

	H26	H27	H28	H29	H30
地方債残高	18,337,677	18,330,814	18,353,076	17,741,807	17,771,404
うち臨時財政対策債	8,610,805	9,016,164	9,248,795	9,442,759	9,595,572
基金残高	4,400,031	4,359,870	4,119,787	3,433,859	3,069,252
うち財政調整基金	3,414,549	3,317,453	2,970,837	2,224,171	1,727,756

地方債残高については、前年度末より約3千万円の増となりました。

基金については財政調整基金を5億円取崩しましたが、主にはふるさと寄附金を原資としたまちづくり支援基金残高が約1億4千万円増えるなど、全体として基金残高は前年度末より約3億6千万円減少しました。

## 3. 主要指標の状況 (P9, P10)

	H26	H27	H28	H29	H30
経常収支比率	97. 1%	95. 1%	97. 1%	98. 3%	98. 6%
実質公債費比率	12. 6%	12. 3%	12. 2%	11. 9%	10. 2%
将来負担比率	73. 8%	69. 2%	64. 3%	56. 2%	41. 9%

財政の弾力性を示す経常収支比率は、前年度より0. 3ポイント増の98. 6%となりましたが、歳出で人件費や扶助費が増えたことなどがその主な要因です。

財政健全化判断比率については、いずれの比率とも早期健全化基準内となっています。実質公債費比率については、昨年度より1. 7ポイント改善され10. 2%となり、将来負担比率については、14. 3ポイント改善され41. 9%となりました。

(実質赤字比率及び連結実質赤字比率は、黒字のため算定されていません。)

◎特別会計

(単位：千円)

区 分	歳 入	歳 出	差 引	翌年度へ繰り越すべき財源				実質収支
	(A)	(B)	(A)-(B)	継続費 通次 繰越額	繰 越 明許費 繰越額	事 故 繰 越 繰越額	計	
国民健康保険事業特別会計	5,758,533	5,856,138	△ 97,605					△ 97,605
後期高齢者医療特別会計	939,380	913,369	26,011					26,011
介護保険事業特別会計 (介護保険事業勘定)	4,120,723	4,085,600	35,123					35,123
介護保険事業特別会計 (介護サービス事業勘定)	54,363	42,921	11,442					11,442
工業団地整備事業特別会計	46,480	25	46,455					46,455